

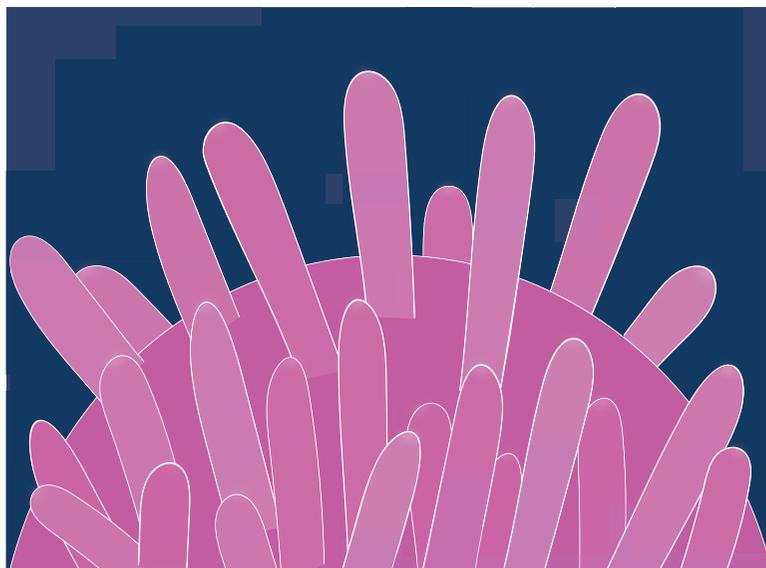
大月コンテンポラリーアート 2025

絵になる大月のウニとネオン管の月

9.6 sat - 9.21 sun

OTSUKI CONTEMPORARY ART 2025

Paintings with Otsuki Sea Urchins and Neon Tube Moon



【展覧会名】 大月コンテンポラリーアート 2025
絵になる大月のウニとネオン管の月

【開催日時】 2025年9月6日(土)～21日(日)
AM10時～PM4時 OPEN 金・土・日・月

【会場】 大月町文化教育交流拠点 COSA
高知県幡多郡大月町小才角 350
TEL 0880-75-5262

【アクセス】 宿毛駅から
・バスで40分(高知西南交通清水宿毛線「小才角」下車 徒歩7分)
・車で30分(R321)

COSAは大月町の南に位置します。大月町内の国道321号線
沿いには高さが2～3mの赤い鉛筆が数ヶ所に立っています。



大月コンテンポラリーアート展は2022年に始まり今年で4年目になります。今年、京都市立芸術大学で日本画を専門とする谷内春子と大学院生たち、ネオン管をはじめ様々な素材で空間を創り出すアーティスト国谷隆志を招き、「絵になる大月のウニとネオン管の月」と題した展覧会を大月町文化教育交流拠点COSAで開催します。

副題の『絵になる大月のウニ』は、谷内春子と5人の大学院生が大月町の花や山で採集したウニや貝殻、岩石や鉱物から顔料をつくり、それを素材の一部にして日本画を描くという、素材から作品に至る一連のプロセスを表しています。

他方、国谷隆志は、細長いガラス管にネオンガスなどのガスを封入し、電流を流して放電させることで発光させるネオン管の作品を展示します。ネオン管は、現在ではLEDの普及により作り手も希少になっていますが、魅力的な光を放つネオン管の愛好家はまだまだ絶えません。本展では国谷隆志による「ネオン管の月」をはじめ、なかなか見る機会がないネオン管作品をご覧ください。

また、会期中アーティストの指導でワークショップを開催します。大月町内でふだん見かけるものの中には、よく見ると作品の素材になる「宝物」が、あちこちにあります。このワークショップでは、それら「宝物」を発見し、多様な方向から作品づくりの楽しみ方を体感していただけるような試みを行います。

大月町では、過疎化・高齢化が進行する中、地域の魅力を再発見・再発信し、地域住民のつながりを深める新たな取り組みが求められています。本アートイベントは、地域振興と移住促進の一環として、芸術を通じた地域活性化を目的に開催します。

主催：+1art

共催：COSA(大月町)

後援：高知県、公益財団法人高知県文化財団、高知県立美術館
大月町教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送
KSSさんさんテレビ

【参加アーティスト】

谷内春子

TANIUCHI Haruko



画材の色彩や材質感と平面上に配置された形もたらすイメージーションを、いかに扱い得るのかを作品制作を通じて探究している。

1986 京都市生まれ

2015 京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程修了

現在、京都市立芸術大学美術学部講師

近年の展覧会

2025 「hue hew」4人展(+1art / 大阪)

2024 個展「四角形の空想」(ギャラリー恵風 / 京都)

2024 個展「知覚する風景」(2kwgallery / 滋賀)

2023 FACE2023 入選(SOMPO美術館 / 東京)

2023 個展「公共美術館企画展vol.2」

(鴨川、御所、出町商店街、京都市京セラ美術館前 他 / 京都)

2022 個展「Longing for prism」(ギャラリー恵風 / 京都)

2021 個展「Möbius loop」(+1art / 大阪)

2020 「透明」3人展(2kwgallery / 大津)



左: Nature -Whispers of sea and mountain- 2
 膠彩(顔料として、ウニの棘、白土、朱土、緑青、カドミウムイエロー 他) 2025
 右: 個展の展示風景 (2kw gallery) 2024 photo by Hyogo Mugyuda
 上: photo by Nanako Kato

国谷隆志

KUNITANI Takashi



『483km先の月』

どこかに出かける時、何も考えず携帯のGoogle Maps で目的地の名称や住所等を打ち込む。そして、車、電車、徒歩、飛行機のいずれかを移動手段として選択し、開始ボタンを押すと目的地までの時間や移動方法を教えてくれる。

今回の移動先へは車で行く選択をしてみる。検索した時間帯にもよるが、京都にあるスタジオから目的地である大月町まで休憩抜きで走り続けると、7時間と少しばかり、距離は483kmあるようだ。7時間超と483km、数字を見るとかなりのもので体力が必要だ。

すごい時間と距離を移動することになるが、そこから見える月とここから見える月は同じ月なのだろうか？

1974 京都生まれ

1997 成安造形大学 立体造形クラス卒業

個展

2025 「私は熱帯雨林で新種の動物を発見しました。」(+1art / 大阪)

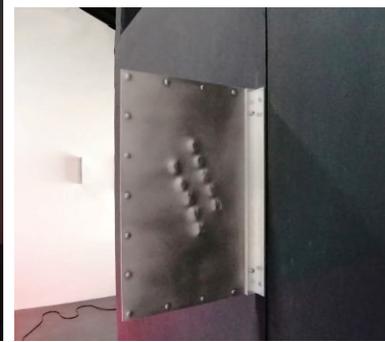
2023 Mix and Match (Ulterior Gallery / ニューヨーク)

2020 Aura (Yutaka Kikutake Gallery / 東京)

2018 Spaceless Space (Ulterior Gallery / ニューヨーク)

2018 Something Red (京都芸術センター 大広間 / 京都)

2015 Channel 6, Deep Projection (兵庫県立美術館 / 兵庫)



左: Untitled
 ネオン管、スチール、アクリルガラス、変圧器、コード 2025
 右: Open Ending
 アルミニウム、リベット 2025

【参加アーティスト】

京都市立芸術大学院生(日本画専攻)

・伊智万莉奈
ICHI Marina
博士課程2回生
沖縄県生まれ



sea fog
天竺綿布、膠、岩絵具、水干絵具
墨、パステル
606x727mm 2024

・藤井歩未
FUJII Ayumi
大学院修士課程2回生
大阪府生まれ



希求の丘にて
麻布、膠、岩絵具、水干絵具
1120x1620mm 2024

・清水阜生
SHIMIZU Kosei
大学院修士課程2回生
愛媛県生まれ



circle
膠、岩絵具、水干絵具
1818x2273mm 2024

・長嶺志保
NAGAMINE Shiho
大学院修士課程1回生
広島県生まれ



猛猫を撃つ
膠、岩麻布、水干絵具
1320x1970mm 2024

・川口聖太
KAWAGUCHI Seita
大学院修士課程1回生
大阪府生まれ



Blue line No.1
鳥の子紙、膠、岩絵具
606x727mm 2024

【音楽会】

・山下光鶴 YAMASHITA Terukaku (ギタリスト・作曲家)
西洋のクラシック音楽、アジアの伝統音楽、現代音楽の作曲技法、さらに南米フォルクローレの影響を受けた特殊奏法で独自の世界を生み出す。
18歳で渡独し、カルロ・ドメニコニ氏に師事。ベルリン芸術大学でクラシックギターと作曲を専攻。以降7年間、ベルリンを拠点にヨーロッパやアジア各地で演奏活動を展開。2020年に帰国後は長崎を拠点に活動。長崎ギター音楽院院長。

【会期中イベント】 ● 参加費の記載がないものは参加無料です。

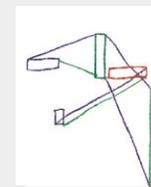
オープニング

9/6 土 PM 1:00-2:00 ワークショップ

於 COSA

「四角形の冒険」 / 谷内春子、京都市立芸大大学院生 ●定員:10名

まず四角形を描き、それらをつなぐと、あら不思議、立体的な形が現れます。形が生まれていく(描く)ときの感覚を、実際に体感してみましょう。



PM 2:00-3:00 ワークショップ

「トレジャーライト」 / 国谷隆志 ●参加費:¥500(材料代)・定員:10名

近くの川に行き、気になる物を拾い集めます。それらに蓄光塗料を塗り、特製の箱に入れて釘で蓋をします。拾った物は箱の中で光り続けます。



PM 3:00-4:00 音楽会

「ギター音と風景」 / 山下光鶴(ギタリスト、作曲家)

中世ヨーロッパの民衆音楽とともにあったギターが、大航海時代に海を渡り、南米の地でまた異なる音楽へと変貌していく様を辿りながら、さまざまな音風景をお聴きいただきます。



出張ワークショップ

9/12 金 PM 2:00-4:00

於
大月町役場1F

「ウニ顔料で大月町の人を描く」 / 京都市立芸大大学院生

大月町役場に芸大生5人が出向き、町内で採集した素材を使って似顔絵や人物画を描きます。



クロージング

9/21 日 PM 2:00-4:00 ワークショップ&トーク

於 COSA

「水平線の冒険」 / 谷内春子、京都市立芸大大学院生 ●参加費:¥500(材料代)・定員:10名

1本の線がやがて波になり海になります。それは絵画の始まり。ウニや岩石など身近にある素材を使って、絵画作品をつくりましょう。



アーティストトーク / 谷内春子、京都市立芸大大学院生

滞制作のことや作品や大月町の印象など。地元の方々との交流も。